

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立松原高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒580 -0041

大阪府松原市三宅東 3 - 4 - 1

E-mail

Website http://www.osaka-matsubara.ed.jp/index.php

幼児児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校で行っている ESD の実践を表す特徴は、次の 3 点である。

1) 生徒発信で創る地域 ESD のカタチ

生徒が学習・経験した内容を、校内や校外で積極的に発信している。地域の小中学校での出前授業により、生徒発信で、本校周辺地域への ESD の普及を努めている。

2) 当事者の立場に寄り添う力を育てる

様々な実践の中で出会う当事者の方の声を聞くことで、その人の立場にたって考える力を育てることを目標としている。

3) 課題探求型授業の実践

実践において、生徒自らがテーマを設定し、そのテーマに沿って探求することを中心としている。地域における課題や自分自身が直面する課題について、考えを深めることにつながっている。

具体的な実践としては、① 1 年次「産業社会と人間」、② 3 年次「課題研究」、③ さまざまな自主活動などにおいて、人権、福祉、国際協力などに係わる学習を行った。

① 1 年次「産業社会と人間」における学習

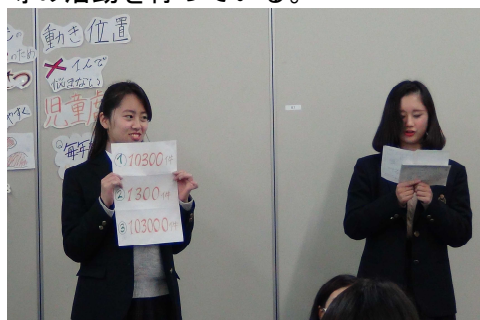
生徒が社会や地域の課題に関心をもち、その中で感じた様々な疑問を自ら解決する「探求型授業」を実施した。具体的には、生徒の興味関心や進路に関係の深い、「いのち」「野宿者支援」「国際協力」「福祉」「子ども」、「ジェンダーとメディア」、権利について考える「ライツ」、地域おこしを考える「松原おこし」などジャンルに分かれて学習を行った。課題に対して生徒がどう考えたか、また、結論として出された解決策については、ジャンルごとに発表会を行い、全体で共有するとともにさらに学びを深めた。

② 3 年次「課題研究」における学習

生徒一人ひとりがテーマを設定し、課題解決に向けて、自分の考えを発信することが主なねらいである。各テーマについて文献研究を行ったり、専門家などにインタビューを行ったりして、自分の考えを深めていく。年間を通して論文を書き、1月の発表大会では15分間の発表を行う。

③ さまざまな自主活動における学習

広島で平和学習を行う「ピースワークショップ」やアジアの国へ行き、現地での交流を通して、その国の課題や自分自身について知る「スタディツアー」、先輩が新入生の手助けをする「ピアカウンセラー」、HIV/AIDS をテーマに命の大切さについて高校生が伝える「るるく」等の活動を行っている。



①「産業社会と人間」グループ発表



②「課題研究」個人発表



③広島平和学習



④スタディツアー（タイ）



⑤HIV/AIDS について考える「るるく」



⑤ピアカウンセラー

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 自主活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクール公式ウェブサイト
ユニクロ「服のチカラ」プロジェクト
ワークショップ版 世界が100人の村だったら
写真で学ぼう！地球の食卓
身近なことから世界と私を考える授業

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程においては、１年次「産業社会と人間」、３年次「課題研究」において、全校生徒を対象にユネスコスクールとしての理念を生かした授業を行っている。環境、福祉、人権、平和、多文化共生などについて学んでいる。また、国際理解系列やコミュニティ系列の各授業においても、ユネスコスクールとして活動を行っている。指導内容については、年度計画を立てる際に、教科会議や担当者会議で調整している。また、各活動について、授業公開や担当者間会議を行い、指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

国際交流委員会を組織している。構成は、管理職、ユネスコスクール担当、学校人権主担などである。定期的に会議を行うことで、ユネスコスクールとしての活動方針・活動内容などを決めていくことができる。また、ある程度固定したメンバーで継続することができており、活動内容や交流先との連携の継続性にもつながっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒・保護者対象に、学校教育自己診断アンケートを実施している。特に評価の高い項目としては、「国際理解・福祉ボランティアなどの意識が高まった」「興味・関心に応じた選択科目がある」などがあげられる。課題としては、「学校内の美化環境について」等の項目で評価が低く、学び、生活する場の美化、環境への意識の低さが明らかとなった。「社会のルールやマナーが身についた」という項目については、生徒評価は高いが、保護者の評価は低かった。引き続き、普段の生活の中に、ユネスコスクールとしての理念を生かしていけるよう指導していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の推進拠点として、地域の小中学校へ出前授業などを行っている。具体的には、本校で行っているスタディツアー、ピアカウンセラー、HIV について、障がいのある生徒との関わりについてなどである。年齢の近い高校生からの発信ということで、小中学生からの反応はとてもよい。また、ワンワールドフェスティバルフォーユースなどのイベントで学校報告を行い、本校の活動について発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

１年次「産業社会と人間」、３年次「課題研究」、家庭科・福祉科などの授業や、HR における人権学習などで、地域コミュニティ、NPO 団体などと協働・交流をしている。生徒が実習を行わせていただいたり、外部の方を招いて講演を行ったりしている。また、年間を通して、地域の小中学校へ、生徒及び教員が出前授業を行っている。テーマは、「平和」「福祉」「障がい」「国際理解」などである。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

大阪・兵庫・京都等の小中学校で大阪 ASP-Net を形成している。月１度のコーディネーター会議で、活動方針や内容を議論し、年に数回の学校間での交流を行っている。中国のユネスコスクールから生徒・教員の訪問を受け入れ、その実施にあたり、国内のユネスコスクールの生徒で数回の準備を行った。また、今年度は、韓国のユネスコスクールの教員団の訪問を受け入れ、生徒及び教員と交流を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動により、参加した生徒が成長した。スタディツアーや平和学習などでは、現地の人々と交流し、様々な社会課題や自分自身の可能性について考えることができるようになった。さらに、活動内容や成果を校内で報告することにより、周囲の生徒の成長にもつながっている。また、ユネスコスクールとして活動することで、国内外のユネスコスクールの生徒・教員と交流することができ、本校の活動内容を振り返ったり、より豊かにしたりするきっかけとなっている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

以下の授業や部活動、自主活動などでの活動が特に、ユネスコスクールの理念を反映した活動であると考えている。

1 年次：産業社会と人間「テーマ別学習（例：福祉、HIV、多文化共生、性的マイノリティなど）およびグループ発表」

2 年次：海外研修旅行（韓国）に向けた事前学習

3 年次：課題研究「テーマ別学習（生徒一人一人が課題を設定し、文献研究やインタビュー、施設訪問などを行う。その成果を論文にまとめ、発表する。）」

ワールドウォッチング（学校設定科目）（国際協力、世界の子どもの貧困、フェアトレードなどについての学習、および地域の小学校への出前授業）

国際交流部（他のユネスコスクールとの交流や地域の小中学校への出前授業）

ピースワーク（広島への平和学習、校内発表、地域の小中学校への出前授業）

るるく（HIV、エイズについての啓発活動）

LHR での活動（障がいや部落問題についての学習）

上記の活動にはあげていないが、各授業などにおいても、ESD の視点から各課題解決に向けた学習を多く取り扱っている。